

令和3年度 第7回 沼津市中心市街地まちづくり戦略会議
《議事概要》

開催日 : 令和3年9月7日(火)

開催時間: 開会 午前10時00分 閉会 午前12時00分

開催場所: Web

出席者

| | 氏名 | 現職等 | 備考 |
|--------|--------|---|------|
| 有識者 | 岸井 隆幸 | 日本大学 特任教授 | 座長 |
| | 森本 章倫 | 早稲田大学 教授 | |
| | 小泉 秀樹 | 東京大学 教授 | |
| | 福井 恒明 | 法政大学 教授 | 欠席 |
| 市民 | 佐藤 清治 | 沼津市自治会連合会(第一) 会長 | |
| | 高田 利昭 | 沼津市自治会連合会(第五東) 副会長 | |
| | 土屋 豊 | 沼津市自治会連合会(第五開北) 会長 | |
| | 栗田 奈穂子 | 沼津市都市計画審議会 委員 | |
| 商工事業者 | 芦川 勝年 | 沼津市商店街連盟 会長 | |
| | 杉山 金芳 | 沼津商工会議所 専務理事 | |
| | 曾根原 容子 | 沼津商工会議所 女性会 会長 | 欠席 |
| 交通事業者 | 木村 誠司 | 東海旅客鉄道株式会社 総合企画本部 企画開発部 担当部長 | 代理出席 |
| | 堀内 明広 | 富士急シティバス株式会社 取締役社長 | |
| | 鈴木 智善 | 平和タクシー株式会社 代表取締役 | |
| 行政機関等 | 大石 剛志 | 静岡県 沼津警察署 交通官 | |
| | 平野 隆広 | 静岡県 交通基盤部 都市局 都市計画課 課長代理 | 代理出席 |
| | 平井 武志 | 静岡県 沼津土木事務所 都市計画課 課長 | 代理出席 |
| | 南木 宏和 | 独立行政法人 都市再生機構 中部支社 都市再生業務部 まちづくり支援室 担当部長兼室長 | |
| | 高峯 聡一郎 | 沼津市 副市長 | |
| | 佐藤 雅史 | 沼津市 まちづくり統括監 | |
| | 真野 正実 | 沼津市 都市計画部 部長 | |
| | 平野 明文 | 沼津市 沼津駅周辺整備部 部長 | |
| | 八木 健一 | 沼津市 産業振興部 商工振興課 課長 | 代理出席 |
| | 村上 浩昭 | 沼津市 建設部 部長 | |
| オブザーバー | 角田 陽介 | 国土交通省 都市局 街路交通施設課 街路事業調整官 | |
| | 武田 正昭 | 国土交通省 中部地方整備局 建政部 都市整備課 課長 | |

<次 第>

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 委員紹介
- 4 事務局からの説明
 - (1) 「公共空間再編整備計画」・「都市空間デザインガイドライン」策定の背景等
 - (2) 公共空間とまちなみの現状分析
 - (3) まちづくりのシナリオ
 - (4) 5つの空間タイプと地区交通の考え方
 - (5) 公共空間整備方針・都市空間形成方針（案）
 - (6) 本日の検討・確認事項
 - (7) 戦略会議・WG等のスケジュール
- 5 意見交換
- 6 閉会

<議事概要>

岸井氏 本日は、公共空間再編整備計画と都市空間デザインガイドラインの議題があるが、まずは公共空間再編整備計画に関して各委員からご意見等をいただければと思う。

森本氏 基本的には本日事務局より説明のあった内容で良いと思う。ヒト中心の空間創出に向けた検討であることが大前提にある中で、ヒトは自ら移動できるが、モノの場合は運んであげなくてはならないことに気をつけなくてはならない。モノを運ぶための空間や方法をどのように考えるかが非常に重要であると思う。あまり使われていない駐車場を上手く使うことや、共同荷捌き場を設けるといった工夫が考えられるが、まずは商工業者が中心となり、地域で荷捌きルールを検討していくのが良いのではないかと。新宿三丁目では、荷捌きの地域ルールに関する社会実験を実施しており、地域の住民や商工業者が独自のルールを提案しながら進めており、このようなルール作りの視点も追加していただきたい。

P. 48, 49 にデザイン誘導指針としてワクワクするイメージ図の記載があるが、反対にワクワクしない部分についても示していけると良いのではないかと。ヒトのための空間創出にあたって、物流や自動車、自転車などのいじらなくてはならない部分、ネガティブな部分の図等も併せて示し、市民や関係者と議論した方が良いコミュニケーションになる。ワクワクする図だけを提示されると、かえって不安に感じることもある。

岸井氏 渋谷でも社会実験を行っているが、路上に設けられた荷捌きスペースに一般車が駐車してしまうなど、思うようにならないことが多い。地域の商工業者自らがルールづくり等を検討していくことが大切である。商工業関連の各委員よりご意見はあるか。

芦川氏 一般車乗降場が東西に分散配置されると、駅により近い周辺街路上の荷捌きスペース

を一般車が利用してしまう可能性があると思う。まずは荷捌きの考え方をガイドライン等に記載して考え方を共有し、その後運用に向けてルール化していくのが良いと思う。商工業者、運送業者、行政と一緒に検討できる場を設けていただけるとありがたい。

岸井氏 沼津市においても社会実験を実施し、プラス面だけではなく、マイナス面の影響も検証・分析する必要があると思うが、どういった内容を想定しているのか。

事務局 今後、(都)沼津駅沼津港線でも社会実験を実施することを検討しているが、その中ではバスバースや荷捌きスペースをどのように利用していくのかについても検討していきたいと考えている。荷捌きのルール作りの重要性も認識しており、社会実験時には関係者との議論を踏まえて検討を進めていければと思う。

岸井氏 社会実験で何をどのように行うかということも重要であるが、社会実験による影響をどのように確認しておくかといったことも重要である。新型コロナウイルスの影響により延期となったイーラ de 前の社会実験に向けては、この点にも留意し、検討の深度化を進めてほしい。

小泉氏 案を評価する際には、良い点と課題点を整理したうえで示す必要があり、本計画においてもその整理を踏まえてCASE-Cが最善の案となっているという説明ができると良い。

公共空間再編整備計画及び都市空間デザインガイドラインは共に、全体として良く検討されている内容だと思うが、まちづくりのシナリオについて、本編には主体の巻き込みのイメージも示せると良い。具体的にどのような人たちをどのような過程で巻き込んでいくのか、また、公共空間をマネジメントしてもらう組織を生み出していくプロセスなど、仮説で構わないので、このような戦略も明示いただきたい。

都市空間デザインガイドラインに係る事柄かもしれないが、地球温暖化や気候変動などの問題に対して、中心市街地の再生、公共空間の再編がどのように貢献できるのか、また、貢献するために何が求められているのかということ、場合によっては章を起こして触れた方が良いのではないと思う。一連の事業が長期間に及ぶことから、その事業期間中に環境への配慮をより強く求められる可能性がある。今後、環境負荷の低減に貢献する公共空間整備がしやすくなるような新たな補助メニューができるかもしれない。その時に速やかに補助メニューを使えるように準備をしておけると良い。

岸井氏 一点目の発言に関して、沼津市として、主体の巻き込みのイメージをどのように考えているのか。

事務局 現在、旧国1南エリアでリノベーションまちづくりを通じて多くのプレイヤーが生み出されている。このようなプレイヤーが集まり、まちのエリアマネジメントを行う団体の組織に繋がっていくというようなプロセス、支援についても記載できたらと考えている。

岸井氏 多くの人が参加したいときに参加できる仕組みを用意しておくことが大切である。

二点目の発言に関しては、時代の大きな動き、流れへの目配りが必要なのではないかなという意見であると思う。公共空間再編の検討にあたっては、以前、森本先生から新しい

モビリティへの対応についても検討したらどうかといったご指摘もあったが、社会情勢を意識した計画にすることも重要である。

また、環境負荷等への配慮に関する新たな施策が打ち出された際に動きやすいように準備しておけると良いとの意見であるが、国土交通省でそのような動きはありそうか。

角田氏 このまちづくりを進める上でどのように予算を確保するのかといったことについては様々な方法がある。国の大きな流れに沿うテーマで、このようなことを実施したいという話があれば、コミュニケーションを取りながら一緒に進めていければと思う。

岸井氏 沼津市として環境問題への対応について、検討されていることはあるか。中心市街地まちづくり戦略と連動する部分はあるのか。

副市長 現在沼津市では、先端技術を追い求めるのではなく、今ある技術をどのように活かして、まちづくりに反映していくのかという視点で、X-Tech NUMAZU というスマートシティの取組を始めたところである。「データのオープン化」「モビリティ」「環境対策」の3つの柱で検討を進めている。まだ立ち上げたばかりであるので、この2つの計画にリンクしていくことを見据えきれてはいないが、将来的にまちが形作られていくときに X-Tech の理念を盛り込んでいきたいと考えている。

岸井氏 新しい技術が次第に開発されていることから、社会の大きな流れと本計画内容が連動していることを記述できると良い計画となるのではないか。

芦川氏 イーラ de 南側での社会実験や駅前の広場化にあたっては、風対策についても検討いただきたい。イーラ de 南側の横断歩道では、高齢者が風で転倒することもある。

また、駅南口直近をおもてなし空間とするのであれば、公共トイレについても検討いただきたい。

岸井氏 風が強いのは、(都)三枚橋錦町線のイーラ de 前面区間の横断歩道部周辺のみか。

芦川氏 イーラ de 前面区間及びイーラ de 東側の駅前広場において風が強い印象である。このような特性を沼津市は認識しているのか。

都市計画部長 認識している。今後予定している社会実験は、風の影響を受けにくい設えで実施できればと考えている。風速等の調査を実施することは予定していないが、十分に風対策を行った上で社会実験を実施できるように準備を進めていく。

岸井氏 風については、これまでに何か検討を行っているのか。

都市計画部長 イーラ de が建設された当時に調査を行っている。

岸井氏 風対策としては、植樹などにより風の向きを変える工夫が考えられる。社会実験時に風問題を解決することは難しいと思うが、ヒトのための空間を拡大するのであれば、何かしらの対策が考えられると良い。

南木氏 P.22 のまちづくりのシナリオの構成で、公共主体から民間主体・官民連携に発展していくイメージが示されている。まずは、沼津市が中心となってきっかけづくりをするということだと思うが、STEP-1 の点の段階から民間主体で民地活用、地先活用を始めていくことが重要であると思う。公共主体とされているが、“公共主導”ということになるの

かもしれない。計画では、「点」の段階から民間に入ってもらい、それが徐々に広がり、最終的にはそれらが融合・連携するという流れが伝わるような表現にしたらどうか。

佐藤氏 昨年、第一地区では、地区内全 3700 世帯を対象にアンケートを実施し、1300 名から回答があった。その中で第一地区に必要な取組を選択してもらったが、一番は防災活動で 10・20 代の女性、50 代、60 代の回答が多かった。続いて、子育て支援、災害救助・消防団の活動、空き家対策であった。第一地区の総意としてまちづくりの中に取り入れてもらえるとうれしい。

岸井氏 市と結果を共有し、地元の方の考え・気持ちをまちづくりの中でどのように受け止めていくことができるのか検討いただきたい。

角田氏 自動車が多い空間を歩ける空間に再編しても仕方がないと思うが、現状の自動車交通はどのような状況であるか。また、沼津市はみんなが公共交通で駅前に来る都市ではないと思うが、自動車でまちを訪れた際の処理はどのように考えているか。

今回から参加させていただいているので、過去に議論されているようであれば状況を教えていただきたい。もし、不十分であれば、駅周辺だけではなく、広域的に見たときの議論も一定程度必要になると思う。

事務局 昨年度、自動車交通に関する分析を実施した。交通量・混雑度・交差点需要率の分析、また、ミクロシミュレーションの結果、駅前街路の 2 車線化により大きな影響は見受けられず、空間再編の可能性があることを確認している。

自動車による来訪への対応については、駐車場配置の方向性を示しつつ、まずは出入口のコントロールというところからヒト中心の空間に向けて段階的に取り組んでいきたいと考えている。

岸井氏 これまでに交通に関する検討も重ねてきており、空間再編の可能性はありそうだとご理解いただければと思う。ただし、あくまでシミュレーション上での話であるので、社会実験を重ねながら進めていく必要がある。

栗田氏 P. 51 で選好意識調査を実施しているという説明があったが、若い世代からの回答はどの程度集まっているか。本計画は中期的なまちづくりを考えているので、若い人たちをターゲットに据えて検討を行わないと、人が集まるまちにはならず、空間の使い方も考えてもらえないのではないかと思う。

事務局 アンケートは集計中であるので、若い世代からどれくらいの回答が得られているかは把握しきれていない。ただ、若い世代の意見の重要性は認識しており、実施にあたっては、市立高校、沼津西高校、情報・ビジネス専門学校、大原専門学校には個別に協力をお願いをさせていただいた。

木村氏 駅前広場は乗り換え空間なので、利用者の利便性を確保する必要がある。一般車乗降場が東西に分散され駅までの距離が遠くなるため、誘導や案内を十分に行い、不便がないようにしていただきたい。

駅にも業務機能があるので、荷捌きや動線等についても、今後も引き続き調整してい

きたい。

自転車の位置づけが気になる。P. 28 に「歩行者>公共交通>自転車>自動車」という優先順位が示されているが、これらは必ずしも明確に区分できるものではないと思う。例えば、自動車や自転車を降りた人が歩行者となるように不可分なところもあるので、エリアによってそれぞれの使い方が決まってくるのではないか。自転車と歩行者・バスの降車客等との交錯が生じないようにするなど、空間を上手くつくっていきけるように引き続き議論をお願いしたい。博多の中心市街地では押しチャリという自転車と歩行者が共存できるような取組を行っているようである。

岸井氏

駅前街路については、2021年8月に開催された第6回公共空間再編WGでバス停留所付近におけるバスと自転車の交錯について意見が出たが、駅前広場についても同様に、各交通手段をどのように処理するのかといった基本的な考え方を整理した方が良いだろう。

堀内氏

駅周辺にヒト中心のにぎわいある空間が創出されるとまちが面的に活性化し、公共交通にとっても利用者の増加が期待できるので、非常にありがたいプロジェクトであると感じている。バス事業者としても本計画内容に積極的に参加し、賑わいづくりに協力したい。観光客の滞在時間をどう伸ばすかということも考えていかななくてはならないが、まずは、地元の方の利便性や安全・安心の確保について意見交換できればと思う。

鈴木氏

資料にも記載いただいたが、タクシープール数の削減に関しては、引き続き各タクシー事業者の理解を得ながら進めていきたい。

駅の直近への障害者用スペースの設置は必要なことであると思う。一方で、一般車乗降場を東西に分散配置しても、バス・タクシー用ロータリー内に一定数の一般車・荷捌き車両の進入が生じてしまうことが想定される。今後、道路標識などの対策も考えていく必要がある。

岸井氏

本日の事務局からの説明には含まれていなかったが、P. 36 で示されている駅前広場再編(案) CASE-C では、バスやタクシーの交通施設数が現況より削減されることを前提とした案となっており、各交通事業者のご協力をいただきながらヒトのための空間を増やしていくという方向性で検討を進めている。一般車乗降場の配置は適切なのか、各交通施設数は過不足ないかといった点は、今後社会実験等で検討・検証を進めてもらえればと思う。各交通事業者には引き続きご協力をお願いしたい。

続いて、都市空間デザインガイドラインについても各委員よりご意見等があればお願いしたい。

小泉氏

全体として良くできている内容であると思う。都市空間形成方針を空間タイプごとに指針を詰めていくということで、その内容を楽しみにしているところであるが、全体として各パーツを繋ぎ合わせるためのガイドラインも必要かもしれないと感じた。

また、前述した環境への配慮に関することだが、大きな枠組みとして位置付けることも重要だが、それほど大掛かりでない、可能なこと、例えば、透水性の高い舗装を使用す

る、土でカバーしている面積を増やす、樹木を配置するといったことを検討し、書き込んでいけると良い。

岸井氏 都市空間デザインガイドラインの中には、「沼津らしい」という表現もあるので、沼津の自然環境をどのように表現するのか、特に緑の話は強化しても良いかもしれない。福井教授にもアドバイスをもらいながら進めていきたい。

森本氏 中身はとてもよく練られていると思う。「ヒト中心の都市空間の創出」がデザインガイドラインの目的であるが、その進捗管理についても考えてほしい。先ほどスマートシティの話も出てきたが、近年は歩行者系のセンサーをまちなかに設置し、歩行者交通量を常時観測している事例も増えてきている。時間がかかる事業であるため、主要な箇所に常時観測可能なセンサーを設置することで、歩行者の行動がどのように変化しているのかを把握し、その結果を受け、方向性や作戦などを調整しながら進めていけると良い。可能であれば、このような記述も追加いただきたい。

岸井氏 駐車場についてもデータをどのように共有するのか、車をどのように誘導するのかなど、スマートな方法を模索できそうである。これらと都市空間デザインガイドラインをどのように結びつけるのかは難しいところであるが、「スマートシティ」というキーワードを入れ込むことで結び付けられるかもしれない。

森本氏 フィジカル空間だけではなく、サイバー空間のデザインも合わせて都市空間デザインであると定義するのであれば、スマートシティとの親和性も見えてくるのではないかな。

杉山氏 ヒト中心にという考えのもと駅前広場の検討がされていると思うが、ヒトを集めるためには、ヒトのための空間を提供するだけではなく、そこでイベントを開催できるような仕組み・仕掛けづくりも必要である。

また、ヒトを中心にするのであれば、高齢者や障がい者の方でも自由に歩いて回れる空間となるように、一定のエリア内では車道や歩道をフラットにするとともに、これからできる駅や公共交通、公共施設などは全てバリアフリーに対応したものとしてほしい。

岸井氏 二点目の発言に関しては、ユニバーサルデザインに関する記述を都市空間デザインガイドライン内に入れ込むように検討を進めたいと思う。

一点目の発言に関して、沼津市として、広場等を整備した後のソフト的な施策はどの程度検討されているのか。

事務局 コロナ占用特例をきっかけとしたほこみち制度の創設といった流れもあるので、道路の利活用ができる制度の導入について、沿道事業者とともに検討していきたいと考えている。その他、占用料の取扱い等、公共空間の利活用に向けての課題や考えなければいけない事柄についても今後検討を進めていく。

角田氏 官民の空間のシームレスな部分、垣根のない部分を人が自由に歩きまわることができるということが大事である。道路空間を民間の方に上手くつかってもらふことと、建物の1階部分がパブリックに使われることが両方行われることで、まちとして良い空間が生まれていくと思う。比較的行政側への注文が多く出てしまいがちであるが、民間側で

何ができるかも一緒に考えていけると良い。

南木氏

デザインガイドラインを踏まえた都市空間を形成し、魅力的なまちづくりを進めていくためには、設えだけではなく、活動も併せて行っていかななくてはならない。UR敷地も資料内で実験広場と位置付けられているので、この仕掛け方についてもみなさんと議論させていただきながら進めていきたいと思う。

岸井氏

本日の会議の場で、発言し損ねたご意見・要望等があれば、直接事務局へ伝えていただければと思う。本日の意見や今後のWG等を踏まえて、公共空間再編整備計画・都市空間デザインガイドラインの中身をブラッシュアップしていければと思う。

以上